

ビタミンBook

発行:笠田高等学校図書館



1号



2022. 4

新しい年度が始まりました。慌ただしく日々が過ぎてしまいます。ふと気づけば木々の新緑がまぶしい季節になっています。気温差が激しく、肌寒い日もあれば初夏を思わせる日もあり、体調管理がむずかしい時期です。

さて、図書館から発行している『図書館だより ビタミンBook』では、新しく買った本の紹介や図書館からの情報を届けます。どうぞ楽しみにしてください。

どうぞよろしく



【図書館の担当について】

図書館長 藤木昭子先生 (体育科)

学校司書 湯峯登詩

図書館には「図書館の自由に関する宣言」があります。



図書館の自由に関する宣言

1979年改訂 (主文)

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由を持つ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する。
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する。
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る。
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

公益社団法人 日本図書館協会



図書館からのお知らせです

☆ 大型連休の前ですので、返却日は5/9 (月) です。

☆ 「全校一斉購入希望調査」が始まりました。図書館で購入してほしい本のリクエストを募集しています。5/31 (火) まで受け付けています。リクエスト用紙は図書館カウンターへ各自で持参してください。

☆ 「朝の読書」が始まりました。中学校で実施されていた学校も多いので、馴染みが深いと思います。「朝の読書」は笠田高校ではずいぶん以前から行っています。すがすがしい朝の10分間、本のページを開いて読書の世界にひたってください。新しい世界が待っていると思います。



学校図書館も「図書館の自由に関する宣言」に則っています。



校内で「こんな本がよく読まれている」などの全般的なことは情報としてお知らせします。



「どんな本を読んでいるか」や個人的な読書記録などについて、本人以外の誰かに話したりすることはありません。

♪♪新しく図書館に入った本を紹介します♪♪



『春の夢』

宮本輝（著）

亡き父の借財を抱えた大学生、井領哲之。大阪にあるホテルでのアルバイトにいそしむ彼の部屋には、釘で柱に打ちつけられても生きている蜥蜴（とかげ）の「キン」がいる。【913.6】

『曼荼羅華X』

古川日出男（著）

【913.6】

『はやぶさと日本人』

～私たちが手にしたもの』

永山悦子（著） 【538.9】

（文庫）

『北条民雄集』

田中裕（編）

北条民雄は 19 歳でハンセン病の宣告を受け入院。わずか 3 年半の 23 歳で亡くなった川端康成によって見いだされた作家北条民雄の小説、童話、随筆、日記から精選。

【918.68】

『新装版 命の器』

宮本輝（著）

【914.6】

『混沌を生き抜く』

ミュージシャンたちのコロナ渦』

ジョー横溝（著）【767.8】

『自分で名付ける』

松田青子（著）

【599.04】

『火花』

～北条民雄の生涯～』

高山文彦（著）

【910.268】

『水の歳時記 365 日』

俳句 α あるふぁ編集部（編）

水にちなんだ俳句を一日一句ずつ、季語や句の解説を加えて美しい写真とともに掲載。



『奇跡』

林真理子（著）

【913.6】

『本好きの下剋上』

香月美夜（著）【913.6】

* 行く春に和歌の浦にて追い付きたり

松尾芭蕉 行く春（春の季語）

【911.307】



『図解 超早わかり 18 歳成人と法律』

南部義典（著）【324.11】

（文庫）

『ピブリア古書堂事件手帖』

～扉子と虚ろな夢～Ⅲ』

三上延（著）

ある古書を店の跡取り息子の死により遺された約千冊の蔵書。高校生になる少年が相続するはずだった形見の本を古書店の主でもある彼の祖父は、全て売り払おうとしている。 【913.6】

『香君 上・下』

上橋菜穂子（著）

【913.6】

『無月の譜』

松浦寿輝（著）

【913.6】

（文庫）

『十津川警部シリーズさらば南紀の海よ』

西村京太郎（著）

【913.6】

（文庫）

『谷川俊太郎詩集 モーツァルトを聴く人』

谷川俊太郎（著）堀内誠一（絵） 【911.56】

『ひまわりは恋の形』

宇山佳佑（著） 【913.6】



『奏鳴曲～北里と鷗外～』

海堂尊（著）

【913.6】

『夏の体温』

瀬尾まいこ（著）

【913.6】

『ムーンライト・イン』

中島京子（著）

職を失い、自転車旅行の最中に雨に降られた青年・栗田拓海は、年季の入った一軒の建物を訪れ、しばらく滞在することになった。 【913.6】

